

令和4年「市民と議会のわがまちトーク」報告書

総務消防委員会

開催日時	令和4年4月24日(日) 午後1時30分から3時まで
開催場所	中総合会館 4階 ホール
テーマ	公共交通を維持していくために何が必要か
参加市民	24人
出席議員	担当委員会：総務消防委員会 上羽和幸、水嶋一明、川口孝文、小西洋一、西村正之、野瀬貴則 サポート委員会：産業建設委員会 今西克己、尾関善之、石束悦子、上野修身、鴨田秋津、松田弘幸 オブザーバー 眞下隆史 副議長

内 容

【全体概要】

多様な視点から御意見をいただくため、次のような方々に御参加いただくこととし、事前に舞鶴市の公共交通の現状や課題に関する資料を送付することにより、一定の御理解をいただいた上で、当日に臨んでいただいた。

- ・ 学生（通学などで利用する人の視点）
- ・ 高齢者（買い物や通院などで利用する人の視点）
- ・ 子育て世代（子供単独や子供と一緒に利用する人の視点）
- ・ 勤労者（通勤などで利用する人の視点）
- ・ 一般公募（公共交通に関心がある人の視点）

当日は、「公共交通は、利用されなければ維持していくことが困難である」との認識の下で、「どうすれば利用されるようになり、維持していけるのか」について、5つのグループに分かれて意見交換を行い、最後に、各グループの意見交換の結果を発表し、共有した。

各グループの意見交換の内容は、以下のとおり。

A班 担当議員：川口孝文 グループの人数：6人（議員含む）

《課題（なぜ利用されないか）》

参加者には、日常的に公共交通を利用している方、ほとんど利用しない方が混在し、双方の視点から多様な意見が出された。

グループ内では、利用しない（利用されない）理由の根幹は、「利便性の悪さ」にあるとの認識で一致した。

[路線バス]

◇ 本数（便数）・時間帯



- ・ 時間が決まっています本数が少ないため、自分の都合に合わせた利用ができない。
- ・ 時間帯が合わず、通勤通学の時間に間に合わない。
- ・ 東西循環線以外は本数が少なく、病院に行けない。
- ・ 通勤通学の時間帯以外は本数が少ない。またはない。
- ・ 朝来方面は、時間帯を問わず本数が少ない。

◇ 連絡

- ・ 他のバス路線への乗継連絡、鉄道との連絡が悪い（待ち時間が長い）。

◇ 料金

- ・ 料金が安い。
- ・ 運賃と速さを考慮すると、鉄道が勝る。

◇ 施設・路線

- ・ 停留所が遠い。
- ・ 停留所に屋根がなく、雨や雪の時に待ちにくい。

◇ 心身の負担

- ・ 買い物で利用すると、荷物が多いときに結局不便。
- ・ 小さい子供がいると、騒いで迷惑をかける。

[鉄道（JR、京都丹後鉄道）]

◇ 本数・時間帯

- ・ 利用したい時間帯に便がない。

◇ 連絡

- ・ 路線バスとの連絡、鉄道相互の連絡が悪い（待ち時間が長い）。

《解決策の案（どうすれば利用されるか）》

出された課題の中から、本数・時間帯、連絡、料金、施設・路線の4点に絞って解決策を検討した。

◇ 本数・時間帯

- ・ 通勤通学の時間帯は、1時間当たり3本に増便。その他の時間帯は、せめて30分に1本とする。
- ・ 運行の時間帯を学生や社会人に合わせる。



- ・ 全市的な調査を定期的に行い、ニーズを掘り起こす。
- ・ 必要な調査を行い、運行時間を見直す。
- ・ 通学用バスを当事者と市の負担で運行する。

◇ 連絡

- ・ 路線バス、鉄道相互へ連絡する便を増やす。
- ・ 駅への電車の到着と路線バスの発車が被らないように（乗り継ぎができるように）する。

◇ 料金

- ・ 利用者増のために料金を安くする（特にバスの定期）。
- ・ 割引対象の年齢を 65 歳以下に引き下げる。
- ・ 観光用のフリーパス（路線バス、鉄道）をつくる。

◇ 施設・路線

- ・ 東舞鶴－西舞鶴間や、西舞鶴－四所間に駅をつくり、利用者増を図る。
- ・ 増えつつある商業施設前にバス停をつくる。
- ・ 遠隔地にもバス停をつくる。拠点バス停（JR 含む）をつくり、そこへ連絡バス路線をつくる（路線延長）。
- ・ バス停の改善（屋根や風よけなど）を図る。

《その他の意見等》

- ・ 綾部バスは使いやすいと感じたので、学ぶべき点はあると思う。
- ・ 小浜や高浜との観光公共交通を検討すべきではないか（今はJRのみ）。
- ・ meemo の全市での実施を期待する。
- ・ 市民全員に時刻表のPRをしっかりとすべきではないか。
- ・ ボランティアの力を借りて、駅やバス停へ送迎し、バスや鉄道の利用を促してはどうか。
- ・ やはり自家用車が便利に活動できる。
- ・ 駅まで行くのに車が必要で、それであれば、そのまま車を利用する。
- ・ 運転免許を持たない人には、公共交通は必要。
- ・ 市民も「ありがとう」の心で利用し、つなげていくことが大事。
- ・ 東西循環線は非常に使いやすく便利で、よく利用している。生活をそれに合わせることを考えてもいいのではないか。

B班 担当議員：小西洋一 グループの人数：5人（議員含む）

《課題（なぜ利用されないか）》

公共交通が「利用されない」「利用しない」理由は、自家用車のほうが便利で、ほとんど自家用車で移動するという意見が多数であった。

しかしながら、公共交通がなくなってしまうたら困る、どうしても残してもらいたいという意見も大勢を占めていた。

とりわけ、高校生や免許を変更した高齢者など、交通弱者の買い物や通院の手段として、どうしても必要という点では、共通認識を得た。

課題として出された意見等は、以下のとおり。

- ・ 自宅から駅やバス停までが遠いという問題があり、そこまでをどうするかが課題。



- ・ 電車もバスも本数やダイヤに課題がある。利用者が少ないから本数も少なく、電車のダイヤも不便で、待ち時間が1時間を超えることがある。
- ・ バスも電車も30分に1本あれば便利だが、現状は1時間に1本程度。利用者が少ないため、交通事業者の採算を考慮すれば仕方ない。
- ・ 東西間の1駅だけでも特急電車であれば特急券が必要であるため、これが何とかなれば（普通料金での乗車など）、待ち時間も減るのではないか。

《解決策の案（どうすれば利用されるか）》

- ・ 市の独自の財政支援が求められる。高齢者だけでなく、通勤や通学の定期に対して補助することが考えられないか。
- ・ 現在実施しているバスの割引回数券の制度を恒常的な制度にすれば、市民がもっとバスを利用し、バスを守ることにつながる。
- ・ お互いさまの精神で、meemoのような地域の乗合自動車で相互に助け合う制度が必要。事故があったときの対応もしっかりとした上で、多少の料金も支払ったらよいと思う。
- ・ 車椅子利用者や高齢者が公共交通を利用するための「介助バス」や、低料金（一律200円など）のバスを走らせてほしい。
- ・ 駅前に屋根付きのバス待合所が必要。車椅子利用者や高齢者が濡れずにバスに乗れる環境が必要。



C班 担当議員：西村正之 グループの人数：6人（議員含む）

《課題（なぜ利用されないか）》

当班では、バスに対する意見が多かった。「利用しない」「利用されない」理由としては、以下のような意見があった。

- ・ 自宅からバス停までの距離が遠いため、自家用車を使わざるを得ない。
- ・ 料金が高い。
- ・ 自家用車があるため、公共交通に頼る必要がない。
- ・ 使いたい時間に使えないので、車で移動せざるを得ない。
- ・ 休日は便が減るため、自家用車を使う。

自家用車を使うことが当たり前になっているが、自動車ばかりに頼っていると、公共交通の利便性の低下を招くばかりか、公共交通を維持することが難しくなると予想されるとの認識を共有した。



《解決策の案（どうすれば利用されるか）》

「どうすれば利用されるか」については、以下のような意見があった。

- ・ バスの本数を増加する。
- ・ 家の近くまでバスを回す。
- ・ 西高の側にバス停をつくる。
- ・ バスの利用方法を説明する。
- ・ 学生にやさしい料金設定や、距離に関係なく一定運賃での運行、また、割引制度を検討する。
- ・ 補助タクシー券の情報がほしい。
- ・ 通勤、通学、買い物等で利用している人に利用しやすいサービスを検討する。
- ・ 自治会ごとに来てくれる小回りの利くバスの運用を検討する。
- ・ 車椅子でバスに乗りやすくする工夫（車いすの留め具を付けるなど）や、福祉車両の空き時間を活用したバス運行を検討する。



将来にわたって移動手段が確保され、安心して暮らすことができるように、自家用車と公共交通の役割分担を考えていく必要があるとの結論を確認した。

D班 担当議員：野瀬貴則 グループの人数：6人（議員含む）

《課題（なぜ利用されないか）》

- ◇ 本数
 - ・ 本数が少ない。そのため、自家用車を優先する。
- ◇ 分かりやすさ
 - ・ 料金体系が分かりにくい。
 - ・ 停留所の場所が分かりにくい。
 - ・ バス乗車の仕組みが複雑。
- ◇ 生活スタイルの変化
 - ・ 在宅でも通販や移動販売などで買い物ができる。
- ◇ 利便性
 - ・ 降りる場所が行きたい場所から遠い。
 - ・ 駅までの移動が苦になる。
 - ・ 支払方法が複雑。
 - ・ 運行停止や遅延が多い（雪などの影響）。
 - ・ 本数が少ないため時間に縛られる。
- ◇ タクシー
 - ・ 高齢者ドライバーが多く不安。
 - ・ 値段が高い。
 - ・ 台数が少ない。呼んでもすぐに来ない。
 - ・ 予約ができない。



《解決策の案（どうすれば利用されるか）》

- ◇ 本数の増加
 - ・ 運行回数を増やす。
 - ・ 登下校の時間は本数を増やす。
- ◇ 乗りたくなる環境づくり
 - ・ 停留所に屋根や見やすい表示をつくる。
 - ・ 駅周辺に時間をつぶせる場所をつくる（図書館など）。
- ◇ 学生への支援
 - ・ 学割を大学生までにする。
 - ・ 定期ではない学生全体の学割。
- ◇ 乗車人数の底上げ
 - ・ 大学や工場を誘致する。
- ◇ 新たな交通施策の取組
 - ・ レンタサイクルを各所に設置する。
- ◇ 行政の支援
 - ・ 乗車ポイントやキャンペーンの展開。
 - ・ 補助金や割引を市民平等に（市民全員が受けられるように）する。
 - ・ タクシーチケットの発行。
- ◇ 設備の小型化
 - ・ 大型でなく、もっと小型のバスの運用



E班 担当議員：水嶋一明 グループの人数：6人（議員含む）

《課題（なぜ利用されないか）》

- ・ バスが時間どおりに来ないことが多い。本数が少ない。
- ・ ダイヤが不便。便利だった東京行の高速バスがなくなった。
- ・ 終電、終バスが早い。
- ・ 運賃が高い。電車のほうが安い、特急料金が高い。
- ・ 清美が丘、野村寺、西高付近に駅がない。
- ・ 中筋、行永地区にバスの便がない。
- ・ 時間に関係なく動ける自動車のほうが便利。
- ・ わざわざバス等に乗るメリットが感じられない。
- ・ まちが広がりすぎている。地域の過疎化や高齢化が顕著。
- ・ 親の意識が低い。
- ・ 利用者減と経費増の板挟みで難しいと考えられる。
- ・ 交通事業者のコロナ対策（十分な換気等）のPRが不十分ではないか。
- ・ 働く人材（運転手）の減少。



- ・ 会議やイベントの開始時刻が公共交通の時刻に配慮していない。
- ・ 公共交通について教える教育の場が少ない。

《解決策の案（どうすれば利用されるか）》

- ・ 近隣市の取組であるどこでも止まってくれるバスや、一律 200 円での運行などを参考に検討する。
- ・ 小学生のバス通学のように定期券のようなものを販売する。
- ・ 定額乗り放題（バス、鉄道）の仕組み。
- ・ ポイント制度など、利用者のメリットを提供する。
- ・ 自治会や子供会向けに、グループ利用時の割引制度。
- ・ 従業員が公共交通を使って通勤している人の多い事業所への優遇制度。
- ・ アンケートをとってバスの本数や時間帯を調査した上で見直しを行う。
- ・ バス業界での人材育成。夢を持たせる教育。
- ・ 西舞鶴と東舞鶴でそれぞれ市民が楽しめる企画をつくり、自家用車ではなく、バスや電車で行き来できるようにする。
- ・ 空白地（中筋、志楽）への路線拡大。
- ・ 市がどれだけ力を入れたり改善しようとしているかを市民に P R する。



【今後の予定】

出された意見をもとに調査研究を進め、「行政の取組」「交通事業者の取組」「市民の取組」として何ができるかを整理して、市への提言を目指す。

